

地域課題の解決に向けた取組

ICT を活用した市町村への支援

空知森林管理署

【はじめに】

空知森林管理署は、空知地方の約半分、南側に位置する地域6市5町に広がる面積約16万5千haの国有林を管轄しています。

また、空知総合振興局管内24市町の森林・林業関係者から構成される空知地区市町村森林整備計画実行管理推進チーム（以下推進チーム）の構成員として市町村森林整備計画の着実な実行を図ることを当署の地域課題と位置づけ、どのようなことができるかを振興局と協力し管内の市町を支援しています。

昨年度から各市町の間伐等の森林整備を進めるため推進チームから林分調査の協力要請があり、ドローンによる写真撮影や森林資源調査を行っています。

【空知森林管理署のドローン活動の取組】

当署ではドローン及び全

天球カメラ等の実践・サポートを進めるため、ドローン等利活用チームを設置し、各種調査や民有林への支援活動などに取り組んでいます。ドローンの目視外飛行を行うことができる操作者7名が中心となり、新たな操作希望者への講習などを行っています。

【ICTを活用した森林資源状況の把握】

今年度は美瑛市有林の調査依頼があり、当署のほか管内市町、森林組合、振興局等の担当者が集合し、ドローンによる空撮チームと林内を調査する標準地調査チームに分かれ調査を行いました。

調査終了後、当署職員から全天球カメラを使っている調査方法についてモニターを用いて説明しました。

「標準地調査と比べ、材積の把握は容易だが、ha当たりの本数は把握できない」などの長所・短所や国有林



全天球カメラ操作について説明

での活用法について説明しました。全天球カメラは、経験が浅い者でも材積の把握が可能とのこと、参加者も熱心に話を聞いていました。ドローンの撮影は、撮影範囲が広範囲に渡ることから7月～10月まで延べ9回の空撮を行いました。途中、機材の不具合などで撮影のやり直しなどがありました。したが、無事にオルソ化（ひずみ補正）し、作成した画像は路網作設や林分調査の補足資料として活用するため推進チームに提供しました。

本来であれば、市や振興局担当者とともに林分状況

を確認し、伐採方法や路網配置の検討などを行い、推進チーム会議での説明を予定していましたが、コロナ禍のため実施できませんでした。しかし、提供した資料は「紅葉時期の画像で、樹種判別がしやすい」と市担当者から好評でした。



作成したオルソ画像（抜粋）

【今後に向けて】

森林の保全整備における市町村の役割が益々大きくなるなか、当署では、民団連携の取組として今後も振興局と連携し、地域の諸課題に対応するとともに地域林業の発展に寄与していきたいと思っています。